

2026年3月27日



札幌のヤブシタグループが日本メディックスを傘下に

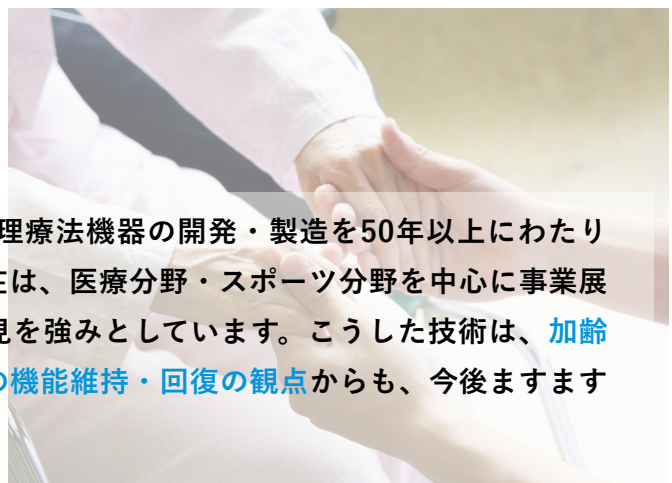
加速する **超高齢社会** 見据え 医療機器分野に本格参入！

介護・スポーツ・フェムテック領域も開拓へ

ヤブシタホールディングス株式会社(北海道札幌市中央区、代表取締役社長：森 忠裕、グループ17社)は、電気刺激治療器や超音波治療器などを開発・製造する医療機器メーカーの日本メディックス株式会社(千葉県柏市、代表取締役社長：津瀬 保彦)をグループ傘下に迎え、医療機器分野へ本格参入しました。

50年超の医療機器技術×ものづくり基盤 技術の融合で介護・スポーツ・フェムテックも展開へ

日本メディックスは、電気刺激治療器や超音波治療器などの物理療法機器の開発・製造を50年以上にわたり手がけ、医療・リハビリ分野で幅広く活用されてきました。現在は、医療分野・スポーツ分野を中心に事業展開しており、人体への電気刺激技術やリハビリ機器に関する知見を強みとしています。こうした技術は、**加齢に伴う身体機能の低下への対応や、自立した生活を支えるための機能維持・回復の観点**からも、今後ますます重要性が高まると見込まれています。



総務省のまとめによると、**2024年10月時点で65歳以上の人口は3,624万人、高齢化率は29.3%に達し、75歳以上の人口も2,078万人**となっています。この10年で65歳以上の人口は約275万人増加し、高齢化率も約3ポイント上昇しました。これに伴い、医療・介護ニーズの拡大に加え、介護現場での人手不足、自立支援や生活支援の重要性も一層高まっています。

今回のグループ化により、**医療・リハビリ製品の提供に加え、介護分野への展開を進めるとともに、人体への電気刺激技術やリハビリ機器の技術を応用した新たな分野への展開を加速していきます**。具体的には、**スポーツコンディショニング、女性の健康課題を支えるフェムテック領域、美容分野**などにおいて、新商品の開発と事業拡大を見据えています。ヤブシタグループはこれまで培ってきた製造技術と事業創造力を活かし、日本メディックスの技術と融合することで、医療・健康分野における新たな価値創造に取り組んでまいります。



50年超の医療機器技術を持つ 日本メディックスについて

日本メディックスは、1970年代創業の医療機器メーカーで、50年以上にわたり、電気刺激治療器や超音波治療器などの物理療法機器を開発・製造してきました。整形外科やリハビリ施設、接骨院など全国の医療機関で導入実績を重ね、疼痛治療や機能回復支援の分野で確かな知見を蓄積しています。

一方、ヤブシタグループは、空調冷熱部材メーカーを中核に、設計・製造・施工・メンテナンスまでを一体で担う事業モデルを構築しています。近年はエネルギー、防災、防音など社会インフラ領域へも事業を拡大してきました。今回のグループ化は、こうした総合的なものづくり基盤を医療・健康分野へ広げる大きな一歩です。医療機器専門メーカーが持つ専門技術と、北海道発の製造グループが持つ実装力・量産力を掛け合わせることで、従来の医療用途にとどまらない新しい価値創出を目指します

日本メディックスの新社長には就任した津瀬 保彦(65)は大手電機メーカー出身で、製作所や事業部にに関わり、営業から技術まで幅広い分野を経験してきました。



日本メディックスが50年にわたり築いてきた物理療法機器の技術に、ヤブシタグループの製造力とエンジニアリング力が加わることで、事業の可能性は大きく広がると感じています。これまでの医療分野に加え、介護、スポーツ、フェムテックなど新たな領域にも挑戦し、医療と健康を支える製品づくりを進めていきます。社員とともに新しい成長のステージを築いていきたいと考えています。

株式会社日本メディックス 代表取締役社長
津瀬 保彦

メディアの皆様取材・撮影いただけること

- ・ 社長単独インタビュー(医療機器分野参入の背景と今後の成長戦略)
- ・ 日本メディックスの医療機器技術と今後の展開可能性
- ・ スポーツ・フェムテック・美容領域への応用構想、関連商品の撮影
- ・ 介護ロボットや生活支援機器など新製品開発の方向性

取材のお申し込み・本プレスリリースに関するお問い合わせ

ヤブシタホールディングス株式会社
広報担当：山田(080-1165-8563)

〒060-0001
札幌市中央区北1条西9丁目3番1号 南大通りビルN13階



◀ 当社やグループ企業については
こちらからご確認ください